

# Review of Operati

## 主要事業の状況



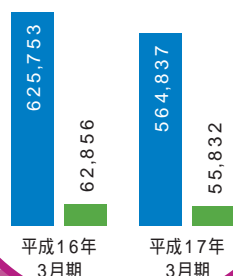
### 情報機器事業

MFP事業では、カラーMFPは新製品投入により大きく販売を拡大。モノクロ高速MFPはトータルでの販売台数は微増。プリンタ事業では、カラープリンタの価格下落が厳しく、全体では減収減益。  
実質ベースでは、売上高はほぼ前期並みの水準、営業利益は30億円の減益。

カラーMFP：戦略商品「bizhub( ビズハブ )C350」が各国で販売好調。新製品「bizhub C450」も投入し、カラーMFPの販売台数は前期比86%増。  
モノクロMFP：低速領域での販売が増加したためトータルの販売台数は、微増しましたが、中速領域で前期比13%減少。

カラープリンタ：低速領域での新製品「magicolor( マジカラー ) 2400」シリーズの販売が好調に推移し、前期比24%増。高速領域でも「magicolor 5400」シリーズ2機種を順次発売開始。

(単位：百万円)  
売上高 営業利益



### オプト事業

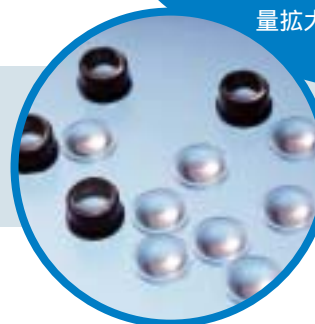
デジタル家電の在庫調整の影響でコンポーネント事業は伸び悩みましたが、液晶偏光板用フィルムやガラス、ハードディスク用ガラス基板が伸長して増収増益。

光ピックアップレンズ：記録系など付加価値品は堅調に推移しましたが、再生系は昨年夏以降在庫調整が長引き、全体の販売数量は伸び悩みました。

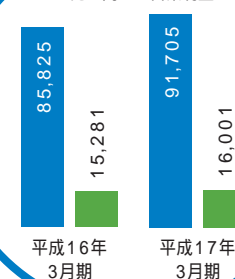
デジタルカメラ/ビデオカメラ用レンズユニット事業：完成品市場の競争激化により需要が鈍化。

カメラ付携帯電話用カメラユニット：国内市場を中心に販売数量は前期比36%増と拡大。

液晶偏光板用フィルム：薄膜および視野角拡大など高機能品を中心に大幅に販売数量拡大。



(単位：百万円)  
売上高 営業利益



注1：売上高はグループ内取引を除いた外部顧客に対する売上高です。

注2：平成16年3月期は旧ミノルタの実績を含みます。

注3：実質ベースとは、為替の影響による目減り分や前期のコニカ・ミノルタ間の取引による膨らみ分、統合後に行った関係会社の決算期統一による調整分、を差し引いた実質的な比較を意味しています。



## フォトイメージング事業

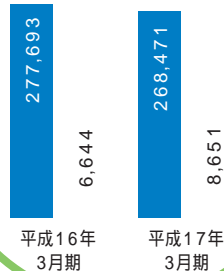
デジタル一眼レフの投入や固定費削減で採算改善に取り組みましたが、フィルム・ペーパーなど銀塩感材の需要減少とデジタルコンパクトカメラの価格下落の影響を大きく受け、減収減益。実質ベースでは、売上高は288億円の減収、営業利益は21億円の減益。

カラーフィルム：市場規模縮小がつづくなか、ロシア・中東・アジア地域で健闘し、販売数量減少は前期比10%減にとどまる。

デジタルミニラボ：新製品「R2 Super(スーパー)」が欧州・アジアで販売好調。販売台数は前期比59%増。

デジタルカメラ：デジタル一眼レフ「-7 DIGITAL(デジタル)」は収益面には貢献しましたが、コンパクトカメラの価格が激しく下落。特にクリスマス商戦以降採算悪化。

(単位:百万円)  
売上高 営業利益



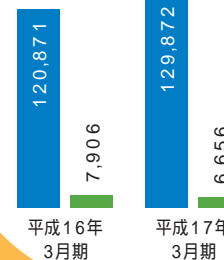
## メディカル&グラフィック事業

医療分野を中心に堅調に推移。  
実質ベースでは、売上高は30億円の増収、営業利益は6億円の減益。

医療分野：国内外市場ともにデジタルX線入出力機器やそれに対応したドライフィルムの販売が好調に推移。

印刷分野：色校正機器やデジタルカラー印刷機などのデジタル機器の販売に注力しましたが、印刷フィルムの需要減少が大きく影響。

(単位:百万円)  
売上高 営業利益



## 計測機器事業

色計測、三次元計測を中心に堅調に推移。

セグメント区分の仕方を平成17年3月期から変更。平成16年3月期の売上高・営業利益を今回の区分基準で換算するとそれぞれ52億円、15億円となり、平成17年3月期とほぼ同水準の業績となります。

大型液晶テレビなどフラットパネルディスプレイ業界向けの色計測機器の販売が好調に推移。

(単位:百万円)  
売上高 営業利益

